

(3)小川原湖

① 地域環境特性

小川原湖周辺の気象は、1年を通しておおむね西よりの風が卓越し、風速は3～4月の春先に強い。全体に寒冷である（資料3-3参照）。

小川原湖は青森県の下北半島の根元に位置し、西から東にかけて六カ所台地、小川原低地、北側に吹越山地が広がる。小川原湖は青森県最大の湖であるが、低地の面積は八郎潟や十三湖の周辺域に比べると小さい。海の影響で形成された海跡湖で、面積約63.2km²、最大水深約25m、平均水深11mの中栄養湖である。魚類が豊富でワカサギ、シラウオ、ハゼ類、ウナギ、シジミなどが獲れる。周辺には姉沼、小田内沼、根井沼、仏沼、田面木沼、市柳沼、鷹架沼、尾駁沼など、南北方向に大小の湖沼が多く見られる。小川原湖からは高瀬川が北上し太平洋に流れ込んでいる。

小川原湖周辺の平坦な台地部では畑、斜面では樹林がモザイク状に分布する。低地部では主に水田となるが、ヨシなどの湿原も一部で見られる。



写真 1-2-3-1 小川原湖周辺域の空中写真(2013年撮影、Google earth)

	
<p>小川原湖北側</p>	<p>小川原湖南側</p>
	
<p>小川原湖南側の丘陵地</p>	<p>七戸川河口</p>
	
<p>鷹架沼</p>	<p>仏沼周辺の水田</p>

写真 1-2-3-2 小川原湖および周辺域の環境(2013年3月31日)

② 分布と利用状況(2014年1月・3月)

小川原湖ならびにその周辺におけるガン類、ハクチョウ類の分布と利用状況を見るため、車両による現地調査を2014年1月、3月に実施した(表1-2-3-1、図1-2-3-1)。結果は次のとおりであった(図1-2-3-2、図1-2-3-3)。

表 1-2-3-1 現地調査実施状況

月	内容	手段	調査日	開始	終了	時間	計
1月	鷹架沼～小川原湖周辺域	車両	4日	6:30	14:30	8:00	10:50
		車両	5日	11:20	14:10	2:50	
3月	鷹架沼～小川原湖周辺域	車両	23日	10:00	14:15	4:15	15:27
		車両	29日	13:20	16:32	3:12	
		車両	30日	9:00	17:00	8:00	
						合計	26:17

a) ヒシクイ

本種は1月の調査時点でハクチョウ類の群れに混じった3羽が、小川原湖南西部の水田地帯で確認された。その他のガン類は確認されなかった。

3月は小川原湖北東部から鷹架沼の水田地帯に分布が確認された(267羽)。

b) ガン類

種類の区別ができなかったガン類を総合した結果では、3月にヒシクイ同様に小川原湖北東部から鷹架沼の水田地帯で分布が確認された(445羽)。当該地域ではガン類の出現が少なかった。

c) オオハクチョウ

1月は小川原湖の湖岸付近を中心に分布するほか、鷹架沼、尾駱沼に出現したが(588羽)、3月は調査時点で小川原湖の一部が結氷しているためか、湖岸を利用することはなく、南西部の東北町付近と北部の湖沼群に出現記録が見られた(916羽)。

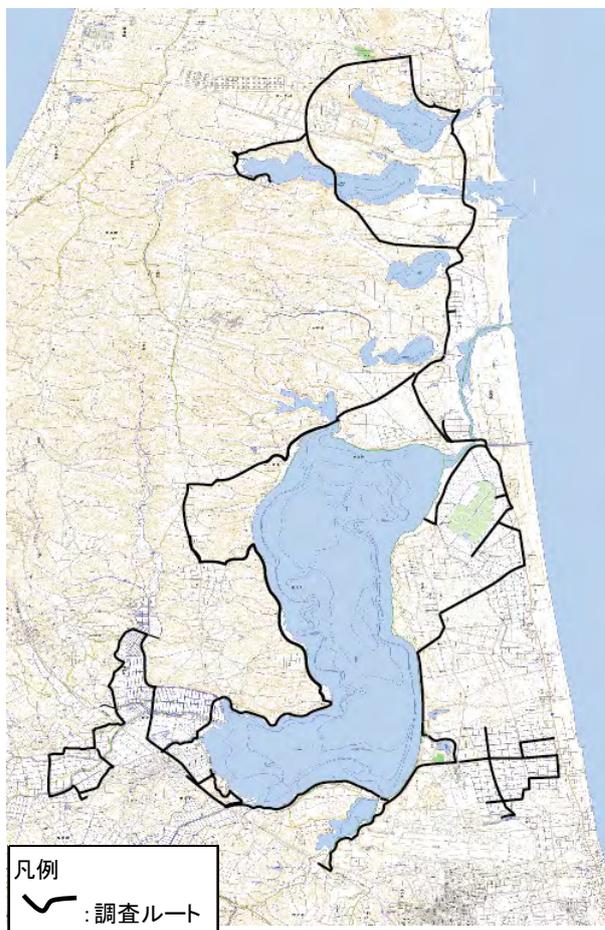
d) コハクチョウ

本種もオオハクチョウ同様、1月は小川原湖の湖岸に出現したが(60羽)、3月は湖岸に見られず、南西部の東北町に出現している(240羽)。

e) ハクチョウ類

種の区別ができなかったハクチョウ類 sp.の記録を含めてまとめた結果、1月は湖岸を多く利用している様子が認められ(929羽)、3月は湖の周囲に利用地域が変わった(2,471羽)。

2014年1月



2014年3月

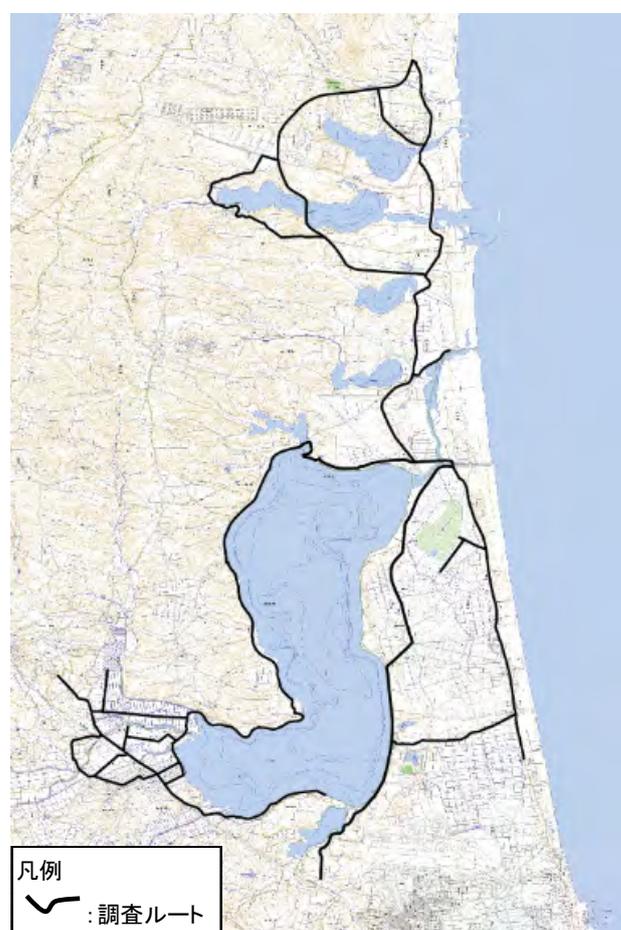
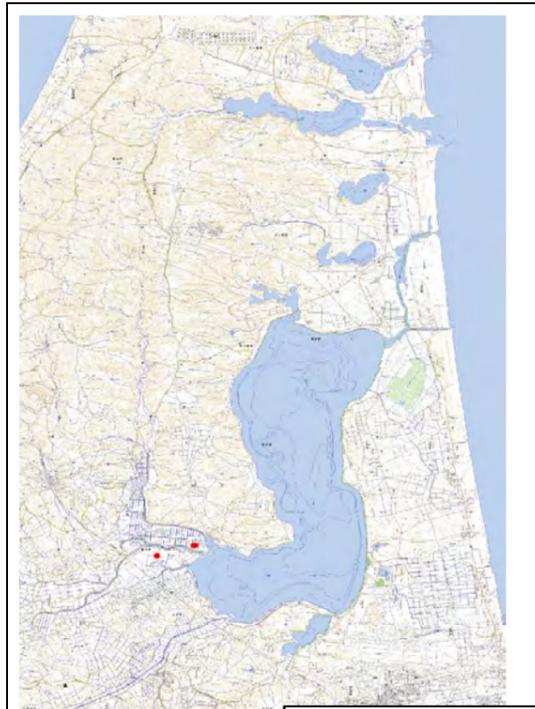


図 1-2-3-1 小川原湖および周辺域における分布と利用状況の調査対象地(2014年1月・3月)



2014年1月
ヒシクイ(総数 3羽)

凡例
○ → : 出現位置と飛行軌跡



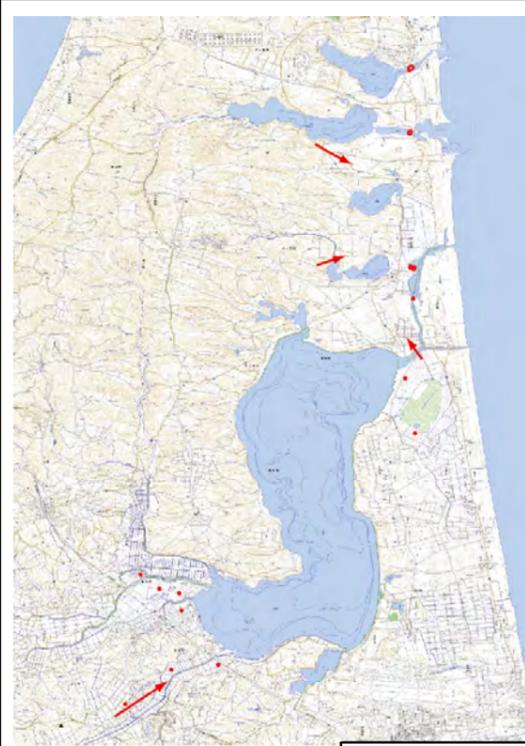
2014年3月
ヒシクイ(総数 267羽)

凡例
○ → : 出現位置と飛行軌跡



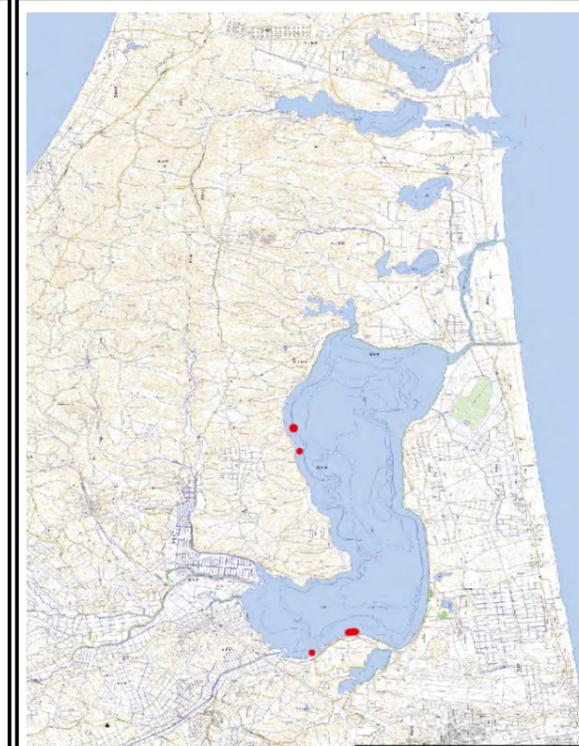
2014年1月
オオハクチョウ(総数 588羽)

凡例
○ → : 出現位置と飛行軌跡



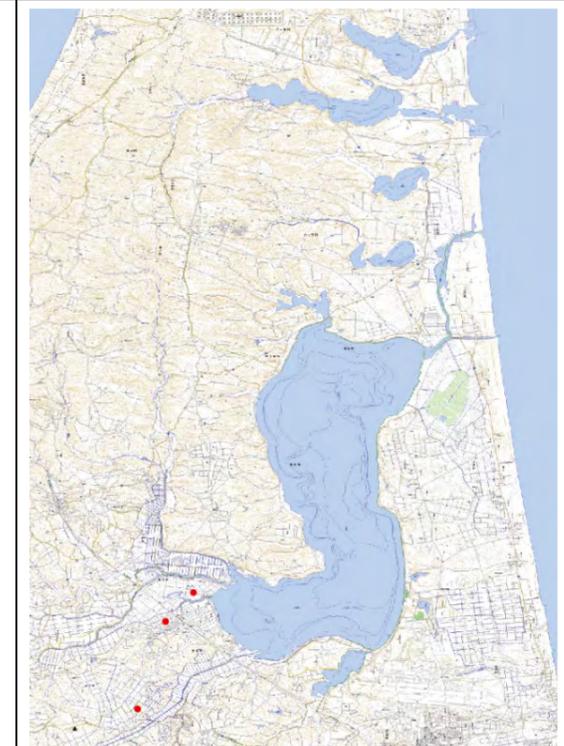
2014年3月
オオハクチョウ(総数 916羽)

凡例
○ → : 出現位置と飛行軌跡



2014年1月
コハクチョウ(総数 60羽)

凡例
○ → : 出現位置と飛行軌跡



2014年3月
コハクチョウ(総数 240羽)

凡例
○ → : 出現位置と飛行軌跡

図 1-2-3-2 小川原湖および周辺域におけるヒシクイ・オオハクチョウ・コハクチョウの出現状況(2014年1月・3月)

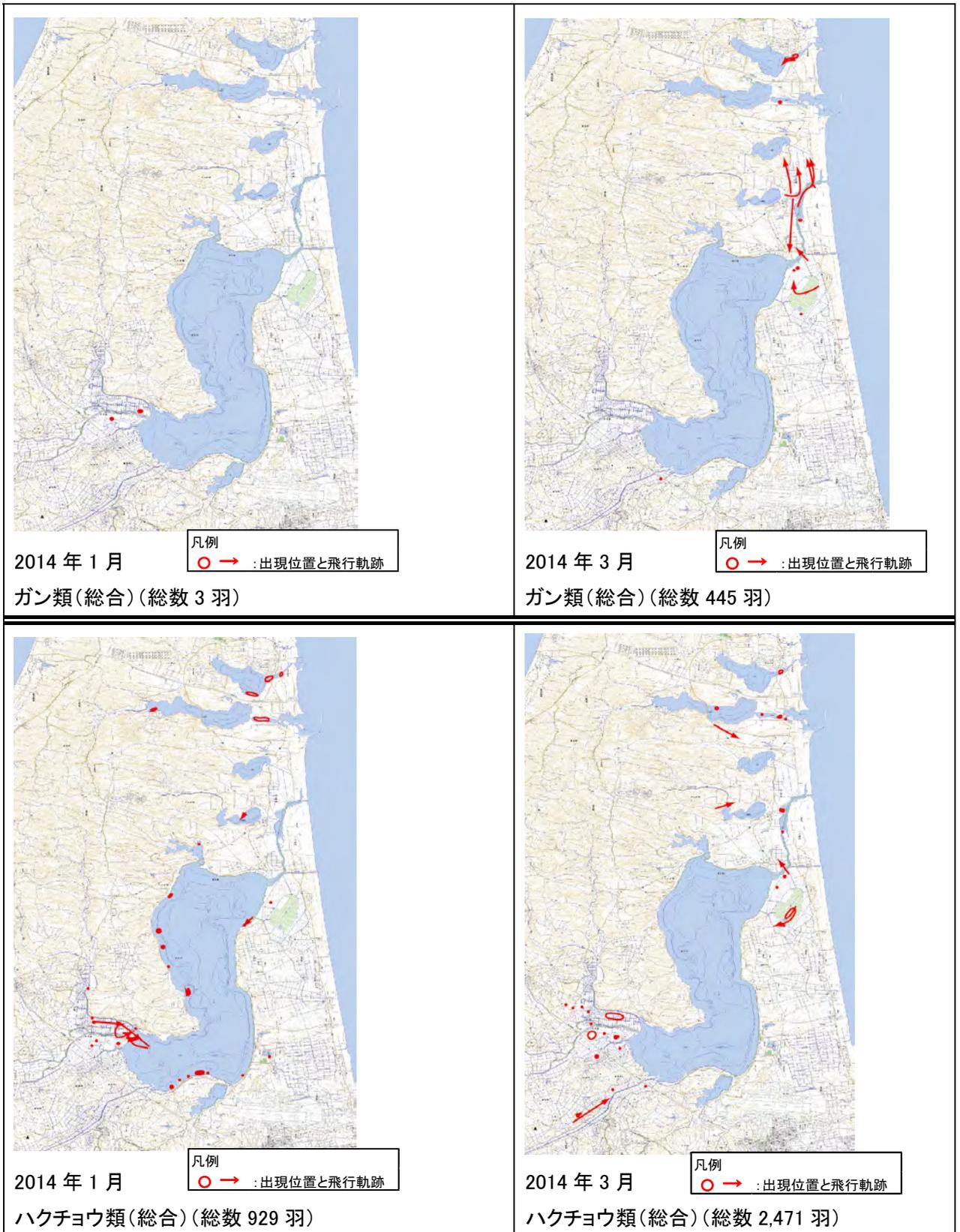


図 1-2-3-3 小川原湖および周辺域におけるガン類(総合)・ハクチョウ類(総合)の出現状況
(2014年1月・3月)

③ 分布状況と埤(休息場)の位置

ハクチョウ類の埤(休息場)が2014年1月の調査時に小川原湖の最西端部に認められた。また近くにはカワウの埤も記録された(図1-2-3-4)。当該地に広く出現しているハクチョウ類と当該埤との関係については不明である。

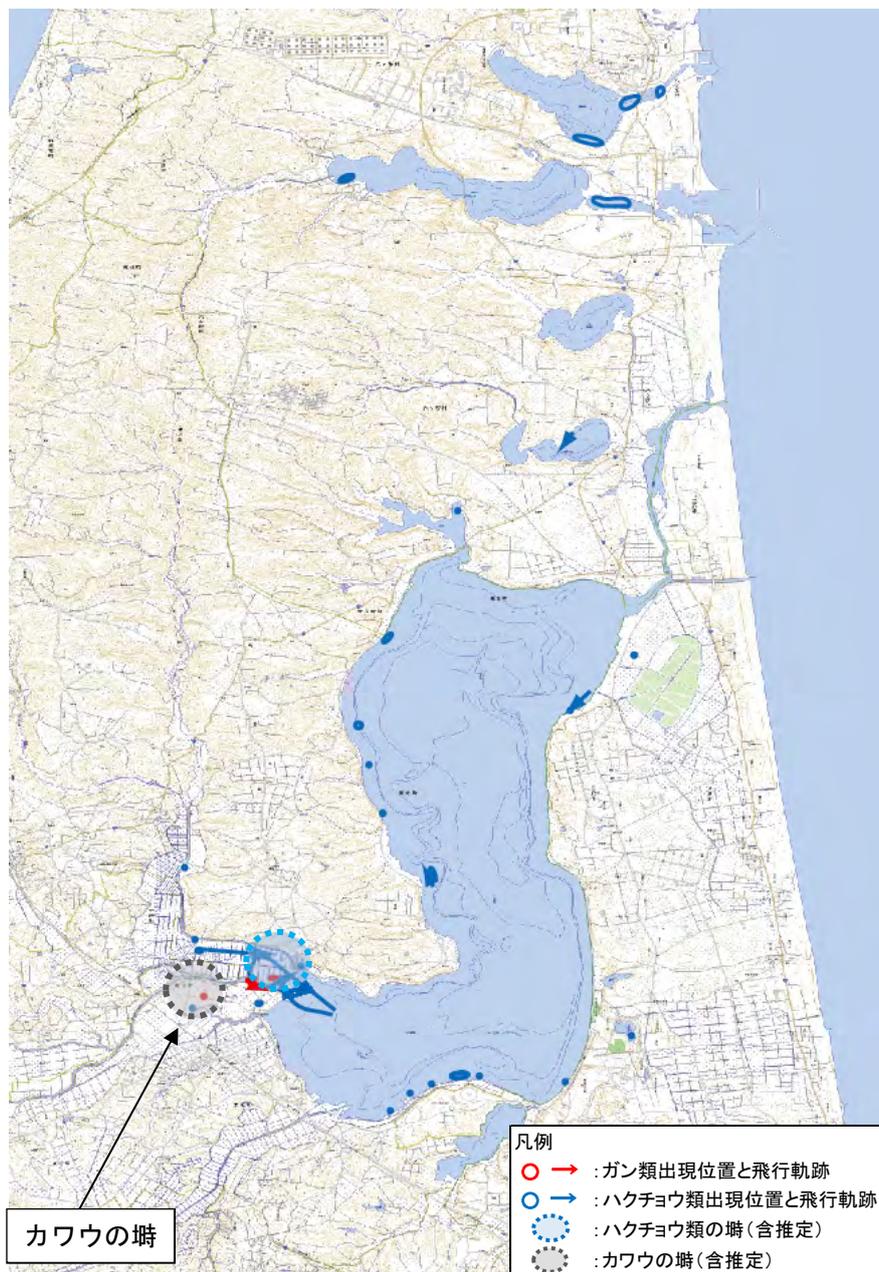


図 1-2-3-4 小川原湖および周辺域におけるガン類・ハクチョウ類の出現状況
(2014年1月4~5日)

④ 行動パターンと飛行高度

ガン類・ハクチョウ類の行動パターンならびに飛行高度を、小川原湖およびその周辺域において観察した（表 1-2-3-2、図 1-2-3-5）。調査は対象種群の動きを捉えやすい場所に定点を設定し、飛行高度については目測または簡易レーザー測距器を用いて記録した。このほか、域内を踏査中に得られた記録についても合わせて分析の対象とした。

目測または簡易レーザー測距器を用いて飛行高度・方向・距離を記録した。

表 1-2-3-2 現地調査実施状況(定点調査)

時期	内容	方法	手段	調査地点(St)	期間	総時間数
1月	塹入りの飛行状況	定点調査	目測	3	1月4日	2:20
1月	塹入りの高度	定点調査	目測、簡易レーザー測距器	3	1月4日	2:20
1月	塹を出る際の高度	定点調査	目測	3	1月5日	1:35
合計						6:15

注)本表以外にも踏査による観察を行った。

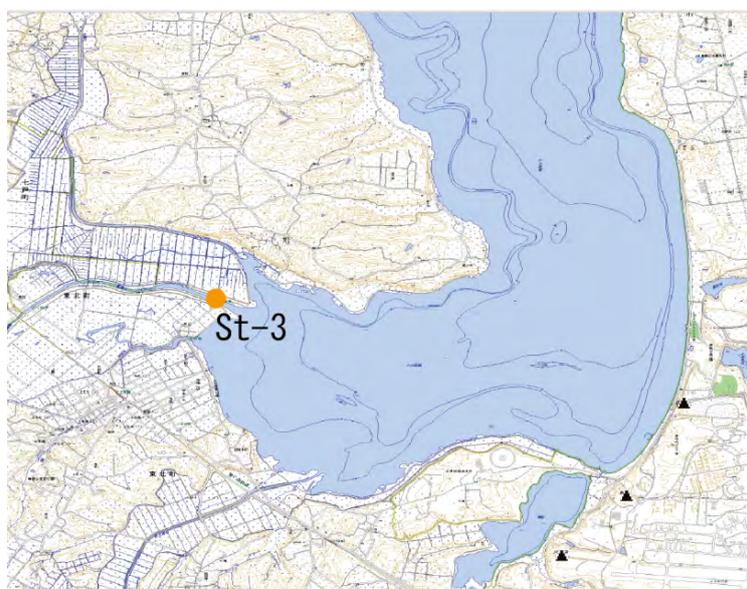


図 1-2-3-5 定点調査の実施地点(2014年1月)

a) 種類別飛行高度

小川原湖および周辺域において、2014年1月ならびに3月に行った踏査により、主に目測で記録した種類別の飛行高度と事例数を図 1-2-3-6 に示す。

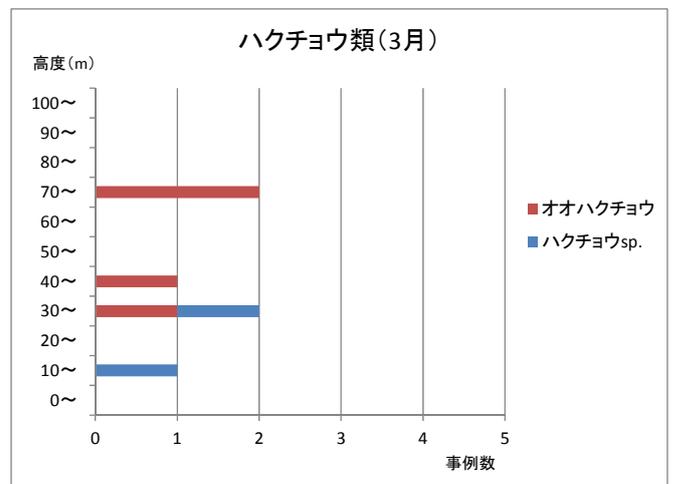
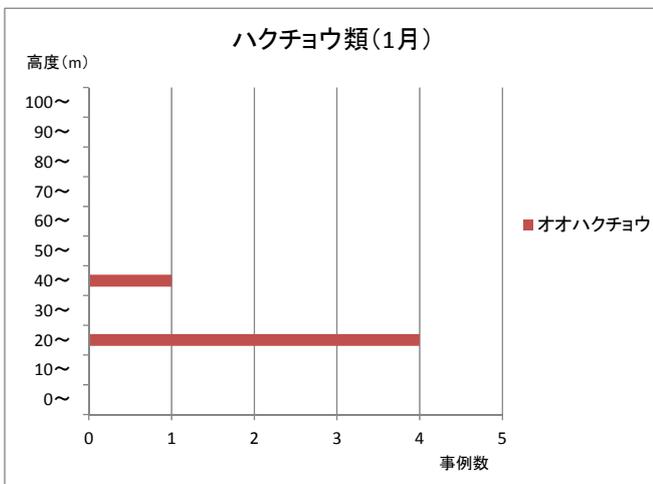
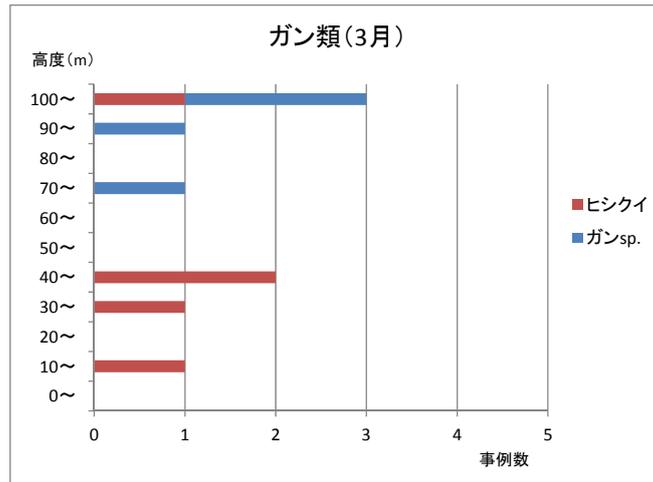
(i) ガン類

3月の記録を得たが、飛行高度は100m以上が最も多く、次いで40m台であった。

(ii) ハクチョウ類

1月と3月の記録が得られたが、1月は20m台が多く、3月は30m台、70m台がやや多かった。

全体に70~100m以上と10~40m台のグループに分かれた。3月の高高度での記録は渡去に関する動きと考えられる。



(注) 高度は各事例で記録された最高高度とする

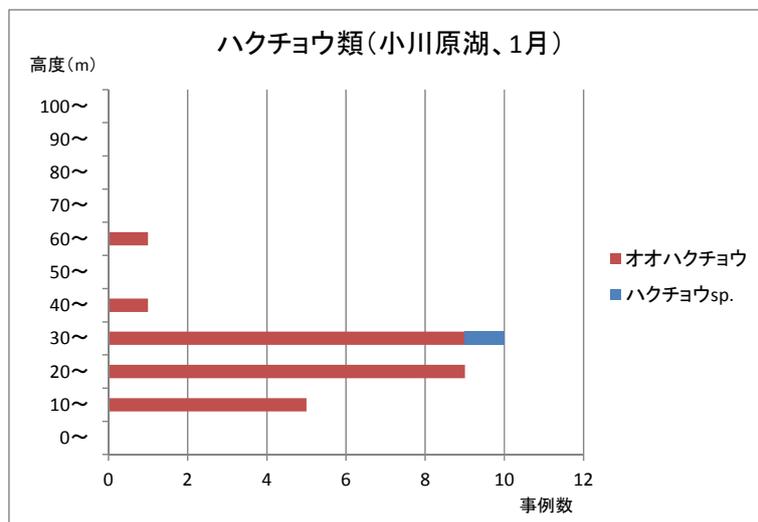
(2014年1月・3月、踏査7回の結果)

図 1-2-3-6 小川原湖および周辺域で観察されたガン類・ハクチョウ類の飛行高度と事例数(目測)

b) 周辺活動域から埽への移動

小川原湖南東部に定点(St-3)を設定し、埽に戻るハクチョウ類の飛行高度を主に簡易レーザー測距器で記録した(図 1-2-3-7)。

オオハクチョウが主で、飛行高度は60m 台まで記録されたが、大半が10～30m 台であった。測定地点から埴までは約800m 離れているが、比較的低高度で進入している。



(注) 高度は各事例で記録された最高高度とする

(2014年1月4日、14:50～17:10)

図 1-2-3-7 埴入りするハクチョウ類の飛行高度と事例数(測距器)

なお、2014年1月5日(6:44～8:19)にも埴付近でハクチョウ類の動きを観察したが、オオハクチョウ1例(高度23m)の飛行が観察されたのみで、他の個体は水面を泳いで埴から離れた様子であった。